

講義名	財務戦略論B			授業形態	
担当教員	小笠原 宏	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
			ナンバリング・コード	ACC282	

主題と概要

企業経営における財務管理の重要性を理解し、その基礎理論の理解と習得をめざす。財務戦略構築上、考察すべき重要な2つの側面は、資本の調達と運用である。その両面が統合的な効果的なマネジメントが重要である。与えられた情報を最大限に利用し、定量的な客観性と論理的整合性を重視した財務アプローチをもって複数投資案件の取捨選択や、資金調達を考えた総合的な財務戦略の立案、遂行を行い、同時にその結果を合理的に評価分析する手法を学ぶ。そして実践力の向上までも目指す。本講座で取り上げるアプローチは財務に限らず経営全般に広く応用が可能である。講義内容は、財務戦略論「A」で取り上げた、自論の基本部分とどう組み合わせるべきかという視点を中心に重視して講義を行う予定。「A」、「B」あわせて本講座大学院の必修科目の内容をベースに、受講対象を学部生向けに集約、調整した内容を考えている。財務理論の実践的应用として事業経営全般における「戦略」的発想力の情勢を特に重視したい。

到達目標

基本的な経営管理能力のうち、戦略構築能力、分析能力の醸成。企業価値、プロジェクト価値など算定ができるようになる。財務および経営管理分野の知識の習得をめざし、多様な角度からのものごとを分析して実践的考察ができるようになる。企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関する情報を元に、戦略構築を基礎としたプロフォルマ(予想財務諸表)の作成ができるようになる。同科目(月曜、火曜)開講だが、まったく同じ内容の繰り直しを行うのでなく、同じ項目も別角度、別事例での解説となるよう努め、基礎的事項毎に連続した内容に関する知識や情報の発信をお行う。その中には、財務戦略論「A」の説明事項なども関連度合いに応じて含む予定。特に、企業統合(M&Aおよびリストラクチャリング)の充満的観点ととも講義で取り上げていきたい。

提出課題

各自の理解度、講義進捗度に応じて、高度かつ応用としての経営管理全般に関する時事課題を提示してレポートと課題とすることも予定(有志による提出を想定、加点材料として評価に入れるものとする)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

毎回の講義前後での、メールによる、質問など、各自のコメントなどを積極的に行ってほしい。加点項目として参照する。(従来通り、対面講義での配布出席票の裏面など活用)。メールでも並行して質問にも対応していく。有益な質問やコメントは、補足的な解説として講義で取り上げたり、ブログなどで公開する。

評価の基準

基本的に15回講義のうち、小課題として受講者に毎回(授業内容要約報告)を推奨する。それがレポート試験などの一部となる。基本全出席を求めている。ただ、滞然と講義出席し入れれば基準クリアというわけではないことも要認識。期末試験実施が基本だが、応用力など思考の向上が認識できるような問題を常に構築している。試験でなく最終的にレポートに変更する場合もある。基本的には評価は、減点方式でなく、加点方式を原則としている。様々な形で積極的な参加が高評価に繋がることを認識して欲しい。受講生の予習、復習、補習、自身の利便性を考慮して対面集合授業の録画およびオンデマンド教材なども考えている。集合形式での試験にしても、場合によってはレポートに切り替える。最終試験(4月)60%程度、通常毎回授業報告などの課題40%を基本とする。80%以上の講義出席(録画によるなど含む)を、最終試験受験資格としている。

履修にあたっての注意・助言他

基本的に講義形式。取り上げる主要項目は別項のようなものと考えており、履修者のレベル、理解度に応じ調整する。財務的な定量分析アプローチで現象問題とどう議論していくかという説明をめざしている。通り一遍のテキスト的な講義でなく、その時点でのホスピタリティーにも言及しながら、実質的応用の視点からの考察を加えたい。経営財務に関する初学者向け基礎文庫を任意で「推薦読書」することを推奨。本に書いてあることを改めて繰り返すような授業ではない。無理な対面集合授業や集合形式での試験(非行するつもり)はない。zoomによる全部白板投影授業形式(既に昨年度から実施)を防疫予防のために、行う予定。ビデオ録画ファイルも積極的に開示するので、履修形態にかかわらず復習に活用を推奨。月クラス、火クラスを連動して講義を進める予定(同じことを繰り返すだけの講義ではないことに注意)

教科書

・特に指定しない。

参考図書

その他

「証券化の基本と仕組みがよくわかる本」小笠原 宏著(秀和システム2004) 「ビジネス・ゼミナール経営財務入門」井出正介・高橋文部著(日本経済新聞社2004) 「コーポレートファイナンス」(第10版)「上」下村大、リリー・S・マヤーズ著 藤井雅夫・訳(経世館出版)白経社2014 「基礎からのコーポレートファイナンス」(第2版)吉川浩一他著(中央経済社2001) 「からずら読めて奥までわかるコーポレートファイナンス」内田文雄・著(創成社2004) 「基礎からのコーポレートファイナンス」(第2版)吉川浩一他著(中央経済社2001) 「DCF企業分析と価値評価」(第2版)土井秀生著(東洋経済新報社2003) など。プリント資料などは、随時作成し、ブログに掲載及び必要に応じて配布予定。

授業計画

- 1.財務諸表の見方と使い方。運転資本の管理。CFMとVBM(FCF計算法など)
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 2.運転資本の管理
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 3.CFMとVBM(FCF計算法)
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 4.割引現在価値法(割引率について)
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 5.資本予算(CAPITAL BUDGETING)
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 6.平均資本コスト
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 7.加重平均資本コストの実践的算定と活用
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 8.配当割引法による株価決定理論
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 9.金融証券市場の市場構造(資金調達および運用の現場としての扱え方)
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 10.資産選択理論として平均分散法D-F,解説
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 11.マートリ対称論と応用(平均分散法D-F,CAPM,市場β,等)
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 12.最適資本構成など資本調達戦略の考え方(ROICの理解)
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 13.負債戦略とは何か。ALMとは何か
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 14.収益構造の再構築とM&A戦略の動向。多角化について
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)
- 15.M&A戦略の意義。戦略的成功要因(EBIT,成功について)
 - 予習：シラバスならびにキャンパスクロス(講義連絡)に事前に提示する講義資料を見たらうで、自分が興味を持った内容をまたうで講義に出席すること(120分)
 - 復習：講義ノート整理・復習し、授業内容の理解を深めること(120分)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

総合的に経営者、マネージャー等チーム、組織のリーダーとしてのもの見方、判断のための手法を学び身につける。当事者意識及びその視点からの経営理論および分析手法、戦略立案を実践できるようにする。評論家的な見方・考え方にとまらぬ、実践において役立つ思考プロセスが身につく。会計コースにおいて「簿記・会計の学問的知識を身につけ、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフロー等に関する情報を作成、分析することができる。

双方授業の実施及びICTの活用に関する記述

ネット上のストレージ(格納)ベースの活用。ビデオ録画による講義内容の毎回配信予定(メインは復習および欠席者補完対策)。毎回出席率の回収集計により、裏面を意見交換の場として活用。ビデオ録画および板書ログを公開することにより、ノート取りに費やす時間を解消(自らまとめとしてのノートを作成することを講義後作成を推奨)。その分毎回講義に集中することが求められる。(内職している暇はないと考える)

実務経験の有無及び活用

外国銀行及びシンクタンク勤務経験があり、実業界、実社会での要請や必要要件の理解認識を持っている。ほんとうの「実学」教育訓練の実践を目指している。

備考
